



遺跡名 前田遺跡
 所在地 川俣町小綱木字前田地内
 調査目的 国道114号改良に伴う埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査
 調査期間 1次調査 平成30年7月18日～平成30年12月14日
 2次調査 平成31年4月18日～令和2年3月10日
 主な遺構 竪穴住居跡、土坑、配石遺構、土器埋設遺構、焼土遺構、柱穴等
 出土遺物 縄文土器、土製品、石器、石製品、漆器、木製品、編組製品、種子類、
 人骨・獣骨類、昆虫類、キノコ類等



△発掘作業中の様子

人々も魅了する



～遺物と遺構～

特集 前田遺跡の魅力

今回の特集では、前田遺跡の魅力と出土品から解明されている縄文時代の川俣町の生活について、福島県文化振興財団の調査員や発掘作業にあたる作業員の方々に話を伺いました。

現在、「ふくしま復興再生道路」として整備が進められている国道114号。福島県教育委員会では、この国道114号の改良工事に伴う前田遺跡（小綱木字前田地内）の発掘調査を福島県文化振興財団に委託し、平成30年7月より調査を開始しました。調査は、令和2年度も継続予定で、今もなお、縄文時代の暮らしを窺えるような貴重な発見が続いています。

現在、「ふくしま復興再生道路」として整備が進められている国道114号。

前田遺跡発掘調査



※縄文時代中期の土器

前田遺跡とは

前田遺跡は、川俣町中心部より南東約3kmにある小綱木字前田地内に位置する遺跡です。前田遺跡は、以前から縄文時代の土器や石器が散布する場所として知られていました。

また、前田遺跡の周辺には、芹ノ沢遺跡や出付遺跡などの縄文時代の遺跡がいくつ分布しています。これらの遺跡は高根川の近くに位置しており、川に沿うように縄文時代の人々が暮らしていたものと想像されます。

前田遺跡がほかの町内の遺跡と異なる点は、通常では土壌の腐食作用によってほとんど残らない、漆の器や木の道具、種子などが多量に出土した



※縄文時代中期の土器

四千数百年という

悠久の時を越え

縄文の赤と黒の文様が

現代の人々を魅了する――

現代に甦る縄文ロマン

真 つ黒い土の中から真つ赤な漆器が出る！普通ではありえない状況に、しばらく立ち尽くしてしまいました。すごい優品の発見も1

点なら偶然と言えるかもしれないが、10点、20点と増えるにつれて、これはとてつもない遺跡を調査していると思うようになりました。

前田遺跡は、縄文時代の生活道具や森林などがそのまま残されている驚異の遺跡です。遺跡に立てば縄文人が吸っていた空気で残っている。そう言っても過言ではないと思っ



福島県文化振興財団
なかの 中野 幸大 さん

ます。発掘調査はこれからも継続していきます。

毎日が発見の連続です。本当にすごい川俣町の宝を福島県の宝として、そして日本の宝として、子どもたちに残せるように、丁寧な発掘調査と出土品の保全に努めていきたいと思えます。

ことです。

前田遺跡は、周辺の山などから染み出る地下水が絶え間なく湧き出す湿地帯に位置しています。この地下水が、遺物が空気と触れることを遮ったため、普段なら腐ってなくなってしまう貴重な品々が当時のまま残されています。これほどの出土数と状態の良さは縄文中期としては全国的にみても稀で、大変貴重な遺跡と言えます。

前田遺跡の秘める可能性

福島県文化振興財団の中野幸大さん（ページ中部参照）は、「20年近く発掘調査をしていますが、これほどの質・量を誇る遺跡は見たことがありません。前田遺跡によって知りえなかった縄文時代の姿がより明らかになっていくと思えます。」と前田遺跡の魅力を話してくれました。

現在、前田遺跡からは連日のように大変貴重な遺物が出土しています。いつか「前田遺跡」というの名が歴史の教科書に載る日が来るかもしれません。

※漆で塗られた土器